

令和元年6月13日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03252

研究課題名(和文)南北朝～隋代における造像銘の調査及び史料集成とその総合的研究

研究課題名(英文)Collection and comprehensive study of Buddhist inscriptions from Nanbei chao period to Sui dynasty

研究代表者

佐藤 智水(sato, chisui)

龍谷大学・公立大学の部局等・フェロー

研究者番号：40116463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：4年間の研究期間で、中国華北に散在する約20余の仏教遺跡を尋ね、また日本・中国・台湾・韓国・アメリカ合衆国の美術館・博物館約30か所を訪れて、仏教文物に刻まれた銘文の調査を実施した。その結果、多くの未報告の造像銘を収録し、北魏ほか、東魏・西魏・北周期の「造像銘目録初稿」を作成した。新収史料については、逐次研究会で報告し検討した。また、中型・大型の銘記についてはタイムマップに投入して、時代的变化や地域的分布を可視化した。以上の作業を基に、担当研究者は各自の視点から、当該時代の各地の宗教環境の背景について考察し報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、仏教文物に刻まれた銘文を収集整理して史学の分析対象にふさわしく提供するのを目的とするが、中国各地の現地調査及び世界に散在する仏教文物の探索により、多くの新資料を得た。その成果を「北魏・東魏・西魏・北周」の造像銘目録初稿として仕上げ、後継の研究者に提示した。また分布図面を作成する作業過程から、各地の宗教環境の解明と共に、当時の民間交通網が浮き彫りになった。この点は、当該時代の経済交易の視点に新たな道を開くものである。また、女性が仏教信仰に傾斜していく過程で、6世紀前期から女性主導による女性集団造像の事例が漸増していくというジェンダー的視点からの歴史的意義も提示することができた。

研究成果の概要(英文)：In these 4 years, we researched about 20 Buddhist remains in Northern China and visited about 30 museums in Japan, China, Taiwan, South Korea, and USA. As a result, we were able to record a good few unpublished Buddhist inscriptions. We made "A catalogue of the Buddhist inscriptions of Beiwei, Dongwei, Xiwei and Beizhou periods, 1st version". On these unnoticed inscriptions, we could report and consider them in our workshop bit by bit. Using the medium, large sized examples of these inscriptions, we made a preliminary time-map for visualization of its historical and regional expansion. So we have examined the religious and historical regionalism in many parts of China during this period, from the various viewpoints of our project researchers.

研究分野：東洋史学

キーワード：東洋史 仏教 道教像 造像銘 地域社会 邑義 女性の造像 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

日本では大村西崖・水野清一・塚本善隆・松原三郎以来の中国仏教造像と造像銘研究の積み重ねがあるが、近年中国でも馮賀軍『曲陽白石造像研究』2005、王景全『河南仏教石刻造像』2009、『四川出土南朝佛教造像』2013、張燕主編『陝西藥王山碑刻藝術總集』2013などが著され、地域限定ながら、丁寧に拓本・移録を紹介し考察する意欲的業績が出始めている。

2. 研究の目的

本調査・研究は、第一に仏教や道教の造像・造寺・造塔・石窟・摩崖などに刻まれた銘文（造像銘）を、史学の分析対象とするにふさわしく整理し提供すること、第二に収集した史料を基に当該時代について、宗教史的・地域史的・政治史的及びジェンダーの視点から考察することを目的とする。

3. 研究の方法

本調査・研究は、時期的には北魏王朝成立の5世紀初頭から隋王朝末の6世紀前半までの時代、地域的には現在の河北省・河南省・山東省・安徽省・山西省・陝西省・甘肅省・四川省に分布する仏教や道教の造像銘を収集し整理して、上記の課題に取り組む。

(1) 文献と現地調査による史料収集。

石窟・摩崖・個別造像の現地調査のほか、博物館・研究所・図書館・書店を訪問し造像銘関係の拓本や資料を収集する。日本で入手可能な考古・文物関係雑誌のほか、近年急増している遺跡・出土文物のネット情報も探索する。

(2) 史料の整理と目録作成

収集した造像銘史料の写真・移録を分類し整理する。移録の際は、尊像や刻字の真偽についても慎重に判断し、目録（北魏・東魏・西魏・北周）を作成する。

(3) 史料の分析

収集した造像銘史料の年代的变化、地域的分布、造像主の民族・身分・性別の判断、祈願内容などの分析を行なう。年代的变化・地域的分析は、タイムマップを有効に活用する。

(4) 考察

以上の史料収集と分析を基に、国家・地域社会・身分・ジェンダー・情報の流れ・異宗教間の交感など、社会史的・地域史的・宗教史的・政治史的な総合的分析と考察を行なう。

4. 研究成果

(1) 現地調査と「造像銘目録」の作成、移録銘文の紹介

中国の石窟・摩崖のほか中国・日本・台湾・韓国・アメリカの博物館・美術館・寺院に所蔵されている仏教文物の調査を実施した。そして既刊の『隋代造像銘目録初稿』2014に繋げるべく北魏・東魏・西魏・北周の『造像銘目録初稿』をまとめた。本科研の課題には含まない『北齊造像銘目録』も同時並行的に進め、ほぼ50%収集した。また、故小川貫弍博士収蔵『初拓龍門一千種』の目録を作成、「史曇等一百人造像記」など稀少な拓本数点を見出した。

(2) 歴史学・仏教学・道教学・美術史・書学・ジェンダーなど多角的視点からの分析と社会史的・地域史的・宗教史的・政治史的観点からの考察によって、以下のような諸点を明らかにした。

北魏特有の「邑義」結成の背景には孝文帝の中間層有力者（土豪）誘引策があった。

（研究代表者：佐藤智水「北魏における皇帝と人民（中間層）との交感と交流」）

北魏正光年間（520年代初頭）以降、青州一帯（山東省）で石仏造営が顕著になるその担い手は、主に永嘉の乱以降に河北省中南部から移住した有力士族の子孫であった。（佐藤智水「北魏時代の山東石像銘史料の探索と整理」）

正光年間以降の同時期に、山東省では漢族有力者の女性集団、陝西省中部では胡族（羌族）有力者の女性集団が邑義を結成し、仏像に加え、道仏混淆像を造った。この時代の女性の活性化についてジェンダーの視点から問題提起した（佐藤智水「女性集団による道佛混淆像について」）。都築晶子（研究分担者）は、これに対し、仏教信仰の女性が活性化する現象は、すでに4世紀の魏華存に源を発する江南の道教に現われており、仏教よりも一層おほかたであり、女性の活性化に関わるジェンダーのテーマは、宗教全般として、4～6世紀の時代性の中で総括的に考察すべきと主張した（「中国の『中世』について - 宗教史の視座から - 」）

中国ではしばしば釈迦像に擬えて弥勒や無量寿（阿弥陀仏）・盧遮那仏が造られ、美術史の課題でもあるが、長谷川岳史（研究分担者）はこれに関連して、仏身論の観点から理解可能であるとされた。（「“盧遮那”與“釋迦”的異同問題 - 以《梵網經》的佛身解釋為中心 - 」）

北村一仁（研究分担者）は精力的に実地調査を行って論文10本を執筆、とくに東魏と西魏、北齊と北周の国境地域での事例を扱い、在地有力者が邑義を結成して団結し、臣従する王朝に対し造像事業を起して忠誠を誓うという特異な地域社会と仏教信仰のありさまを描出した。

宮崎洋一（研究分担者）は、シカゴ美術館所蔵の巨大碑像（高さ3.2m）西魏大統年の『寧氏一族造碑像記』の移録を完成した。この新史料の碑像は人名だけで900人を優に超えるもので、6世紀中頃の山西省南西部（河東地区）の地域社会像究明に必須の史料となる。

市川良文（研究分担者）は2回の現地調査に基づき、山東省東平県の隋開皇七年造営「白佛山石窟1号窟」の銘記移録を完成した。石松日奈子（研究協力者）は山西省平定県の開皇初年開鑿の開河寺石窟二尊大仏の造営事情を報告した。この二つは、隋文帝の仏教奨励策に歓喜し呼応する地方人士による大仏造営という点で共鳴するものがあり、貴重な史料と言える。

研究分担者の岡田至弘と北村一仁は、石窟・摩崖・中型大型造像の地域的分布・年代的变化を可視化すべく、タイムマップを維持管理したが、その過程で北村は石窟・摩崖が道に近く水の便のよい地に残存することに着目、グーグルなどの衛星地図を利用し、北朝～隋代の古道を復元する試みを行い、山西から河南への間道などいくつかのルートを見出した。本科学研究の初期の目的を超えて研究領域を開拓した点で、望外の成果である。

5. 主な発表論文

（研究代表者、研究分担者には下線）

〔雑誌論文〕（計23件）

宮崎洋一（研究分担者）

「プリンストン大学所蔵『顔文忠魯公文蹟』について」『汲古』73号、2018、pp. 19-26

神塚淑子（研究分担者）

「中国宗教思想研究四十年」（査読無）『名古屋大學中國哲學論集』17号、2018、pp.1-34

北村一仁（研究分担者）

「北朝～隋代における沁河流域の交通路 - 摩崖・石窟の位置を手がかりとして」（査読有）『東

洋史苑』90号、2018、pp. 38-90

北村一仁 (研究分担者)

「小川貫弍所蔵拓本初探 附「小川貫弍所蔵拓本目録(除 龍門部分)」(査読無)『同朋大学
仏教文化研究所紀要』37号、2017、pp. 73-85

北村一仁 (研究分担者)

「北朝期における『邑義』の諸相 国境地域における仏教と人々」(査読無)『魏晋南北朝史の
いま』(窪添慶文編。勉誠出版、2017) pp. 110-120

石松日奈子 (研究協力者)

「雲岡石窟の皇帝大佛」(査読有)『國華』1451号、2016、pp.19-31

石松日奈子 (研究協力者)

「山西平定開河寺石窟の研究」(査読有)『東方學報・京都』91冊、2016、pp.1-44

宮崎洋一 (研究分担者)

「顔真卿撰書『八關齋会報徳記』について」(査読無)『文教国文学』60号、2016、pp. 9 23

神塚淑子 (研究分担者)

「六朝道教と『莊子』 『真誥』・靈宝經・陸修静」(査読無)『名古屋大学文学部研究論集』
哲学62号、2016、pp. 55 81

北村一仁 (研究分担者)

「北朝～隋における民衆仏教と地域社会 - 山西省運城市出土の仏教石刻を用いて - 」『アジア
仏教文化研究センター2014年度研究報告書』3号、2015、pp. 379 404 (国際共著)

岡田 至弘 (研究分担者), 平田 健人

「マルチメディア・アーカイブによる案内システムの構築」(査読無)『人文科学とコンピュー
タシンポジウム論文集 (情報処理学会)』1号、2015、pp. 71-76

北村一仁 (研究分担者)

「北魏・東魏時期端氏県酒氏家族的佛教造像事業」『魏晋南北朝史の新探索 - 中国魏晋南北朝
史学会第十一届年会及国際学術研討会論文集』11号、2015、pp. 518-534 (国際共著)

北村一仁 (研究分担者)

「河南省洛寧県出土『北周牛氏千仏碑』に見る東西国境地域社会」(査読有)『龍谷大学アジア
仏教文化研究センター2014年度研究報告書』3号、2015、pp. 219 242 (国際共著)

北村一仁 (研究分担者)

「兩魏期における正平高涼楊氏と地域社会 仏教造像事業をめぐる人々とその目的」(査読
有)『龍谷史壇』140号、2015、pp. 29 78

北村一仁 (研究分担者)

「北朝国境地域における仏教造像事業と地域社会 山西陽城出土『上官氏等合邑造釋迦仏像
摩崖』を手掛かりとして」(査読無)『東洋史苑』84号、2015、pp. 1 46

佐藤智水 (研究代表者)

「造像銘の解説、用語解説、考察」(査読有)『中国造像碑』(韓国国立中央博物館所蔵中国石
刻造像碑) 2015、pp. 22-197 (国際共著)

佐藤智水 (研究代表者)

「北魏時代の山東石像銘史料の探索と整理」(査読無) 科研報告『石刻史料と史料批判による魏晉南北朝史研究』(研究代表者:伊藤敏雄)』2015、pp.21-33

〔学会発表〕 (計19件)

都築晶子(研究分担者)

「中国の「中世」について 宗教史の視座から」『中国中世史研究会・秋季例会』(招待講演) 2018年10月、京都大学総合研究棟

佐藤智水

「女性集団による道佛混淆像について」『科研報告会』2018年9月、龍谷大学白亜館

佐藤智水

「北魏時代の女性主導による集団造像」『漢魏南北朝史研究会夏季合宿』2018年8月、長野市

北村一仁

「中古時期長治・高平地区的道路交通 - 從摩崖和石窟的位置来看 -」『第六届中国中古史前沿論壇及全球史視野下的嶺南研究國際學術研討会』(國際学会) 2018年、中国・広西師範大学

北村一仁

「北朝後期～隋代における洛陽・登封・鄭州・許昌間の交通路 佛教寺院・摩崖・石窟の位置を手がかりとして」『第2回日本洛陽學國際シンポジウム“隋唐洛陽と東アジア”』(國際学会) 2018年、京都大学総合研究棟

長谷川岳史

「玄奘の佛身觀」『第二届慈宗國際學術論壇』(主催:慈氏学会)(國際学会) 2018年、香港

長谷川岳史

「玄奘における『仏地經論』と『成唯識論』の翻譯意図」『首届 玄奘与絲路文化國際檢討会』(主催:玄奘与絲路文化國際檢討会組委會)(國際学会) 2018年、中国・西安

佐藤智水

「北魏における皇帝と人民(中間層)との交感と交流」『魏晉南北朝史研究会大会(招待講演) 2017年9月、東京大学法文1号館

市川良文(研究分担者)

「大谷探検隊関連資料について」『アジア仏教文化研究センター、グループ1 第7回研究会』2017年10月、龍谷大学大宮学舎

北村一仁

「北朝時期ギョウ・上党之間的交通道路和摩崖・石窟」『中国魏晉南北朝史学会第十二届年会及國際學術研討会』(國際学会) 2017年、中国河北省磁県・嵩景楼酒店

佐藤智水

「北魏造像銘にみえる『奉為皇帝』願文について」『漢魏南北朝史研究会夏季合宿』2016年8月11日、長野市

長谷川岳史

「玄奘唯識思想の形成 《佛地經論》與《成唯識論》的翻譯意圖」『中央民族大学哲学与宗教学学院學術講座(招待講演)』2016年3月16日、中央民族大学文華楼(中国・北京)

長谷川岳史

「“盧舍那”與“釋迦”的異同問題 以《梵網經》的佛身解釋為中心」『第2屆 中國華嚴國際學術研討會』(國際学会招待講演)、2015年10月24日、陝西師範大學8號樓(中國・西安)

佐藤智水

「北魏時代の女性主導による集団造像」『アジア仏教美術論集小研究会』2015年7月4日、早稲田大學戸山キャンパス32号館

〔図書〕(計2件)

神塚淑子(研究分担者)

『道教經典の形成と仏教』(名古屋大學出版會、2017年)總596頁

角井博・加藤東陽・宮崎洋一(研究分担者)

『新編 書道』(教育出版株式會社、2017年)總158頁

6. 研究組織

(1) 研究分担者

・都築晶子 (T S U Z U K I ,akiko)

龍谷大學・世界仏教文化研究センター・研究員・名誉教授

研究者番号:00115601

・神塚淑子 (K A M I T S U K A ,yoshiko)

名古屋大學・文學部・名誉教授

研究者番号:20126030

・宮崎洋一 (M I Y A Z A K I ,yoichi)

広島文教女子大學・人間科学部・教授

研究者番号:5025829

・長谷川岳史 (H A S E G A W A ,takeshi)

龍谷大學・経営学部・教授

研究者番号:00309105

・岡田至弘 (O K A D A ,yoshihiro)

龍谷大學・理学部・教授

研究者番号:30127063

・市川良文 (I C H I K A W A ,yoshihumi)

龍谷大學・文學部・准教授

研究者番号:70440881

・北村一仁 (K I T A M U R A ,kazuto)

龍谷大學・世界仏教文化研究センター・研究員

研究者番号:60748028

(2) 研究協力者

・石松日奈子 (I S H I M A T S U ,hinako)

東京国立博物館・客員研究員

研究者番号:80424307